Asia Indicators

発表日：2022 年7月 15 日（金）

豪州、6月失業率は 48 年ぶりの低水準に改善（Asia Weekly(7/8～7/15)）

～インドのインフレ率は6ヶ月連続で目標を上回る推移が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 西濵 徹（TEL：03-5221-4522）

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	ｺﾝｾﾝｻｽ	前回
7/8（金）	**（台湾）6 月輸出（前年比）**	**＋15.2%**	**＋13.5%**	**＋12.5%**
	6 月輸入（前年比）	**＋19.2%**	**＋24.0%**	**＋26.7%**
7/9（土）	（中国）6 月消費者物価（前年比）	＋2.5%	＋2.4%	＋2.1%
	6 月生産者物価（前年比）	＋6.1%	＋6.0%	＋6.4%
7/12（火）	**（フィリピン）5 月輸出（前年比）**	**＋6.2%**	**－－**	**＋6.2%**
	5 月輸入（前年比）	**＋31.4%**	**－－**	**＋29.4%**
	（インド）6 月消費者物価（前年比）	**＋7.01%**	**＋7.03%**	**＋7.04%**
	5 月鉱工業生産（前年比）	**＋19.6%**	**＋20.6%**	**＋6.7%**
7/13（水）	（韓国）金融政策委員会（政策金利）	2.25%	2.25%	1.75%
	（ニュージーランド）金融政策委員会（政策金利）	2.50%	2.50%	2.00%
	（中国）6 月輸出（前年比）	＋17.9%	＋12.0%	＋16.9%
	6 月輸入（前年比）	＋1.0%	＋3.9%	＋4.1%
7/14（木）	**（豪州）6 月失業率（季調済）**	**3.5%**	**3.8%**	**3.9%**
7/15（金）	（中国）4-6 月実質 GDP（前年比）	＋0.4%	＋1.0%	＋4.8%
	6 月鉱工業生産（前年比）	＋3.9%	＋4.1%	＋0.7%
	6 月小売売上高（前年比）	＋3.1%	＋0.0%	▲6.7%
	6 月固定資産投資（年初来前年比）	＋6.1%	＋6.0%	＋6.2%
	（インドネシア）6 月輸出（前年比）	**＋40.68%**	**＋30.26%**	**＋27.03%**
	6 月輸入（前年比）	**＋21.98%**	**＋20.10%**	**＋30.73%**

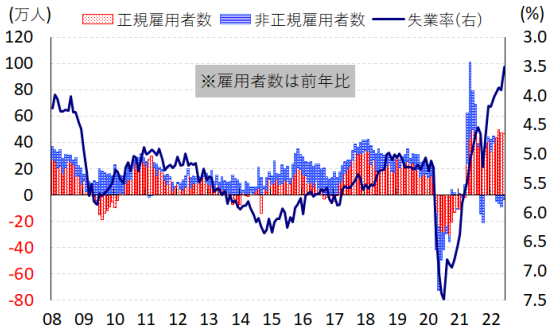
（注）ｺﾝｾﾝｻｽは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。**灰色で囲んでいる指標**は本レポートで解説を行っています。

[豪州]～経済活動の正常化に伴い大都市部を中心に雇用改善、失業率は 48 年ぶりの低水準に大きく改善～

14 日に発表された６月の失業率（季調済）は 3.5%となり、前月（3.9%）から 0.4pt 改善しており、48 年ぶりの水準に低下している。失業者数は前月比▲5.4 万人と前月（同＋0.8 万人）から２ヶ月ぶりの減少に転じている上、雇用形態別でも非正規雇用に対する求職者数（同▲3.6 万人）のみならず、正規雇用に対する求職者数（同▲1.8 万人）もともに減少するなど質的にも改善している上、中期的な基調も減少ペースが加速するなど量的にも改善が進んでいる。一方の雇用者数は前月比＋8.8 万人と前月（同＋6.1 万人）から８ヶ月連続で拡大しており、雇用形態別でも非正規雇用者数（同＋3.5 万人）のみ

ならず、正規雇用者数（同＋5.3 万人）もともに拡大するなど質的な改善がうかがえるほか、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど量的にも雇用を取り巻く状況は改善している。地域別でも、最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州のほか、第２の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州、第３の都市ブリスベンを擁するクイーンズランド州など大都市部を中心に雇用拡大の動きが確認されるなど、経済活動の正常化の動きの広がりが雇用回復を後押ししているとみられる。

図１ AU 雇用環境の推移



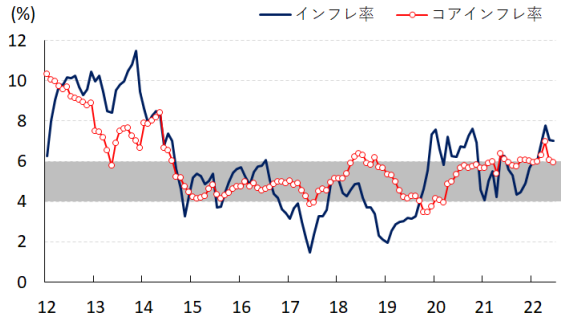
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

[インド]～生活必需品のみならず全般的な物価上昇を受け、インフレ率は6ヶ月連続で目標を上回る推移～

11 日に発表された６月の消費者物価は前年同月比＋7.01%となり、前月（同＋7.04%）からわずかに鈍化したものの、６ヶ月連続で中銀（インド準備銀行）の定めるインフレ目標（４±２%）の上限を上回る推移が続いている。前月比は＋0.52%と前月（同＋0.94%）から上昇ペースは鈍化しているものの、原油や石炭などエネルギー資源の上振れを反映してエネルギー価格は上昇傾向が続いているほか、生鮮品を中心とする食料品価格も上昇が続くなど、生活必需品を中心にインフレ圧力がくすぶる状況は変わっていない。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比＋5.96%と前月（同＋6.08%）から鈍化してインフレ目標の上限をわずかに下回っており、前月比も＋0.03%と前月（同＋0.46%）から上昇ペースも鈍化するなど、一見すればインフレ圧力が後退しつつある。ただし、これは住宅価格の下落が影響しているとみられる一方、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、金融市場における通貨ルピー安による輸入物価の押し上げも重なり幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かっているほか、感染一服による経済活動の正常化を受けてサービス物価も上昇するなど、全般的にインフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。

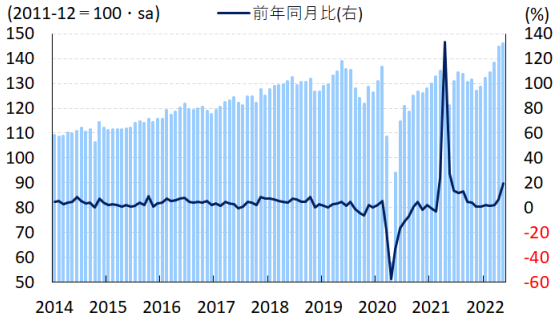
また、同日に発表された５月の鉱工業生産は前年同月比＋19.6%となり、前月（同＋6.7%）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は６ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大の動きを強めるなど底入れしている。石炭をはじめとする鉱業部門の生産は拡大の動きが続いているほか、製造業の生産も拡大の動きが続くなど幅広い分野で生産拡大の動きが広がっている。感染一服による経済活動の正常化の動きも追い風に全般的に生産活動が活発化している様子がうかがえる。

図 2 IN インフレ率の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図 3 IN 鉱工業生産の推移

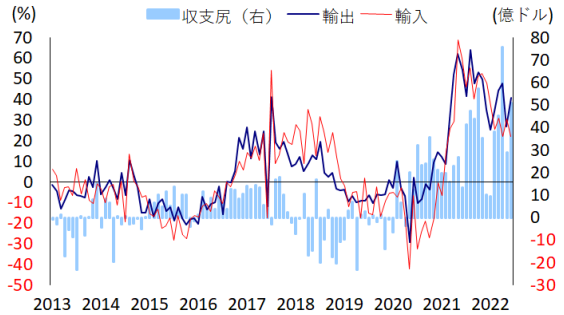


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成，季調値は当社試算

[インドネシア]～世界経済の回復と商品高が輸出を押し上げ、景気回復と商品高は輸入を底入れする展開～

15 日に発表された 6 月の輸出額は前年同月比＋40.68%となり、前月（同＋27.03%）から伸びが加速している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は 2 ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。国際商品市況の上振れの動きを反映して原油や石油製品、天然ガス関連の輸出額が押し上げられているほか、これら以外の鉱物資源関連の輸出額も押し上げられるとともに、製造業関連や農産品関連の輸出額も底入れするなど、世界経済の回復の動きが輸出を押し上げている。年明け以降、同国政府は度々天然ガスやパーム油などの禁輸に動いたものの、これらの措置が部分的に解除されていることも輸出を押し上げているとみられる。一方の輸入額は前年同月比＋21.98%となり、前月（同＋30.73%）から伸びが鈍化している。ただし、前月比は 2 ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に底入れの動きが続いている。商品市況の上振れを反映して原油や天然ガス関連の輸入額が押し上げられているほか、景気回復の動きも製造業関連を中心とする輸入額を下支えする展開が続いている。結果、貿易収支は＋50.89 億ドルと前月（＋29.01 億ドル）から黒字幅が拡大している。

図 4 ID 貿易動向の推移



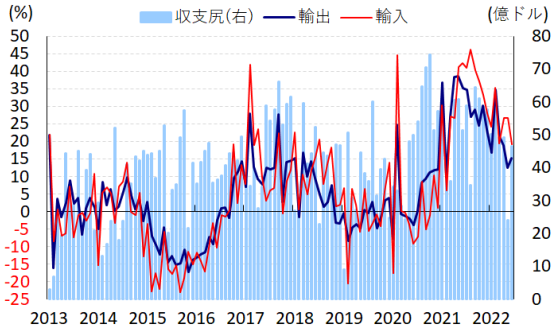
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～電子部品関連を中心に堅調な動きがみられるなど、世界経済の回復は輸出を下支えする展開が続く～

8 日に発表された 6 月の輸出額は前年同月比＋15.2%となり、前月（同＋12.5%）から伸びが加速した。前月比も＋0.9%と前月（同▲3.2%）から 2 ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連に底堅い動きがみられる一方、金属関連や素材関連のほか、縫製品関連など軽工業関連の輸出は弱含む

など対照的な動きがみられる。また、国・地域別でも米国や日本など先進国向けを中心に堅調な動きがみられる一方、中国本土をはじめとする新興国向けの弱さが重石となる動きがみられるなど、対照的な動きが確認出来る。一方の輸入額は前年同月比＋19.2%となり、前月（同＋26.7%）から伸びが鈍化した。前月比は▲1.8%と前月（同＋1.4%）から３ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い展開が続いている。電子部品関連を中心とする輸出の堅調さを反映して関連する素材及び部材などに対する需要が下支えされているほか、国際商品市況の上振れも輸入額を押し上げているものの、化学関連を中心とする需要下振れの動きが輸入額の足かせとなっている。結果、貿易収支は＋46.40 億ドルと前月（＋24.05 億ドル）から黒字幅が拡大している。

図 5　TW　貿易動向の推移

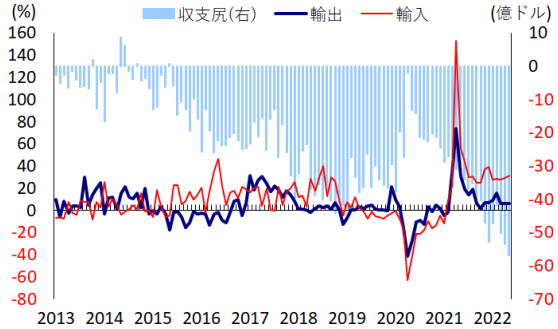


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

[フィリピン]～世界経済の回復の動きが輸出を下支えするなか、商品高は輸入を一段と押し上げる展開が続く～

12 日に発表された５月の輸出額は前年同月比＋6.2%となり、前月（同＋6.2%）から同じ伸びで推移している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は２ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。主力の輸出財である電子部品関連を中心に堅調な動きが続いており、中国本土向けのほか、米国や日本向けなど全般的に輸出は底堅い動きをみせるなど、世界経済の回復の動きが輸出を押し上げている。一方の輸入額は前年同月比＋31.4%となり、前月（同＋29.4%）から伸びが加速している。前月比も４ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど底入れの動きが続いている。電子部品関連の輸出の堅調さを反映して素材及び部材関連の輸入が押し上げられているほか、家計消費など内需底入れの動きに加えて、国際商品市況の上振れも輸入額を押し上げている。結果、貿易収支は▲56.79 億ドルと前月（▲53.49 億ドル）から赤字幅が拡大している。

図 6　PH　貿易動向の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

以　上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。